

I 生活行動 【付表1参照】

過去1年間（平成22年10月20日～平成23年10月19日）の自由時間における主な活動について、10歳以上人口（208万5千人）に占める割合（以下「行動者率」という。）を全国平均と比較すると、「スポーツ」を除いて、行動者率はすべて上回っている。

平成18年と比べると、「学習・自己啓発・訓練」「ボランティア活動」「趣味・娯楽」は上昇しているが、「スポーツ」「旅行・行楽」は低下している。

1 学習・自己啓発・訓練【第1表参照】

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は74万7千人、行動者率は35.8%

過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は74万7千人で、10歳以上人口（208万5千人）に占める割合（以下「行動者率」という。）は35.8%（全国10位）となっている。行動者率を平成18年と比べると3.2ポイント上昇している。

男女別にみると、男性は34.1%（行動者数34万5千人）、女性は37.5%（40万3千人）で、女性が3.4ポイント高くなっている。これを平成18年と比べると、男性は0.8ポイント、女性は5.7ポイントそれぞれ上昇している。

(2) 男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」を行った人の行動者率を種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」が13.0%と最も高く、「家政・家事（料理、裁縫、家庭経営など）」が9.9%（全国1位）、「芸術・文化」が9.8%などとなっている

男女別にみると、男性は、「パソコンなどの情報処理」が15.7%（行動者数15万9千人）と最も多く、次いで「人文・社会・自然科学」が10.1%（同10万2千人）、「商業実務・ビジネス関係」、「英語」が9.0%（同9万1千人）などとなっている。

一方、女性は「家政・家事」が16.0%（同17万1千人）と最も多く、次いで「芸術・文化」が11.8%（同12万7千人）、「パソコンなどの情報処理」が10.4%（同11万2千人）、「英語」が7.9%（同8万4千人）などとなっている。

図1-1 男女、「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成23年）

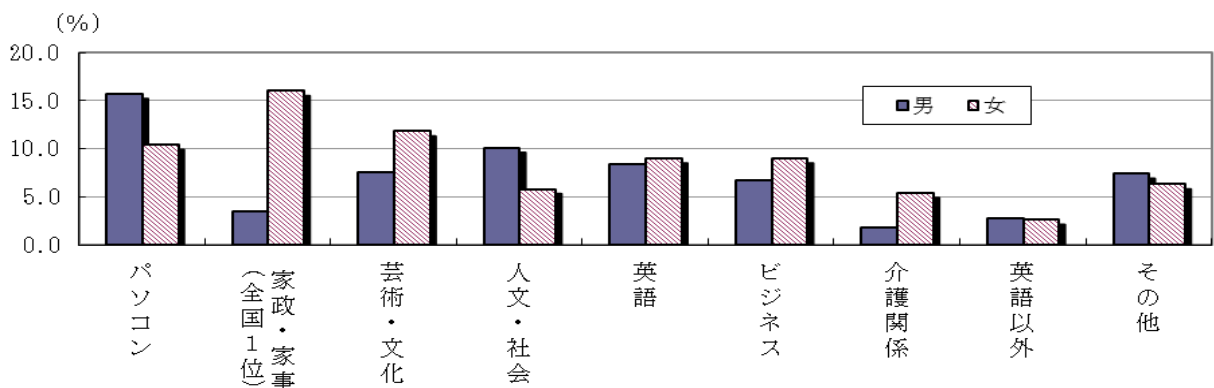
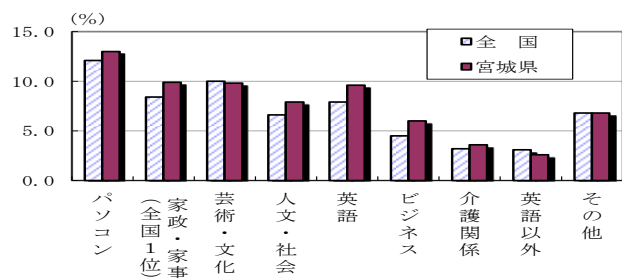


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成23年）



注)

パソコン：パソコンなどの情報処理
 家政・家事：家政・家事（料理，裁縫，家庭経営など）
 人文・社会：人文・社会・自然科学
 （歴史，経済，数学，生物など）
 ビジネス：商業実務・ビジネス関係
 英語以外：英語以外の外国語

2 ボランティア活動【第2表参照】

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は約63万9千人，行動者率は30.7%

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は63万9千人で，10歳以上人口に占める割合（行動者率）は30.7%（全国14位）となっている。行動者率を平成18年と比較すると，0.5ポイント上昇している。全国と比べると，4.4ポイント上回っている。

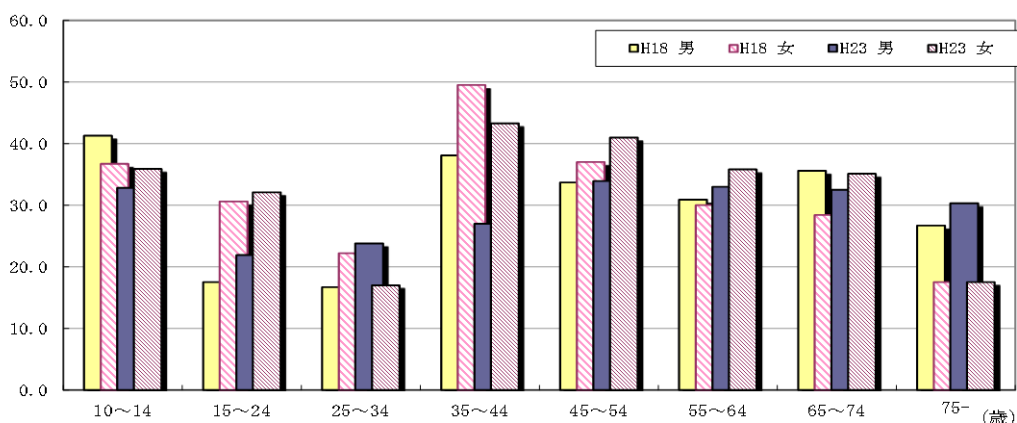
男女別にみると，男性は29.2%（行動者数29万5千人），女性は32.1%（同34万5千人）で，女性が2.9ポイント高くなっている。これを平成18年と比べると，男性は0.2ポイント，女性は0.8ポイント，それぞれ上昇している。

(2) 45～54歳で最も高い「ボランティア活動」の行動者率

「ボランティア活動」の行動者率を年齢階級別にみると，45～54歳が37.4%と最も高く，次いで35～44歳が35.1%，55～64歳が34.4%などとなっているが，25～34歳は20.4%と最も低くなっている。

男女別にみると，男性は45～54歳が33.9%と最も高く，次いで55～64歳が33.0%となっている。女性は35～44歳が43.3%と最も高く，次いで45～54歳が41.0%となっている。

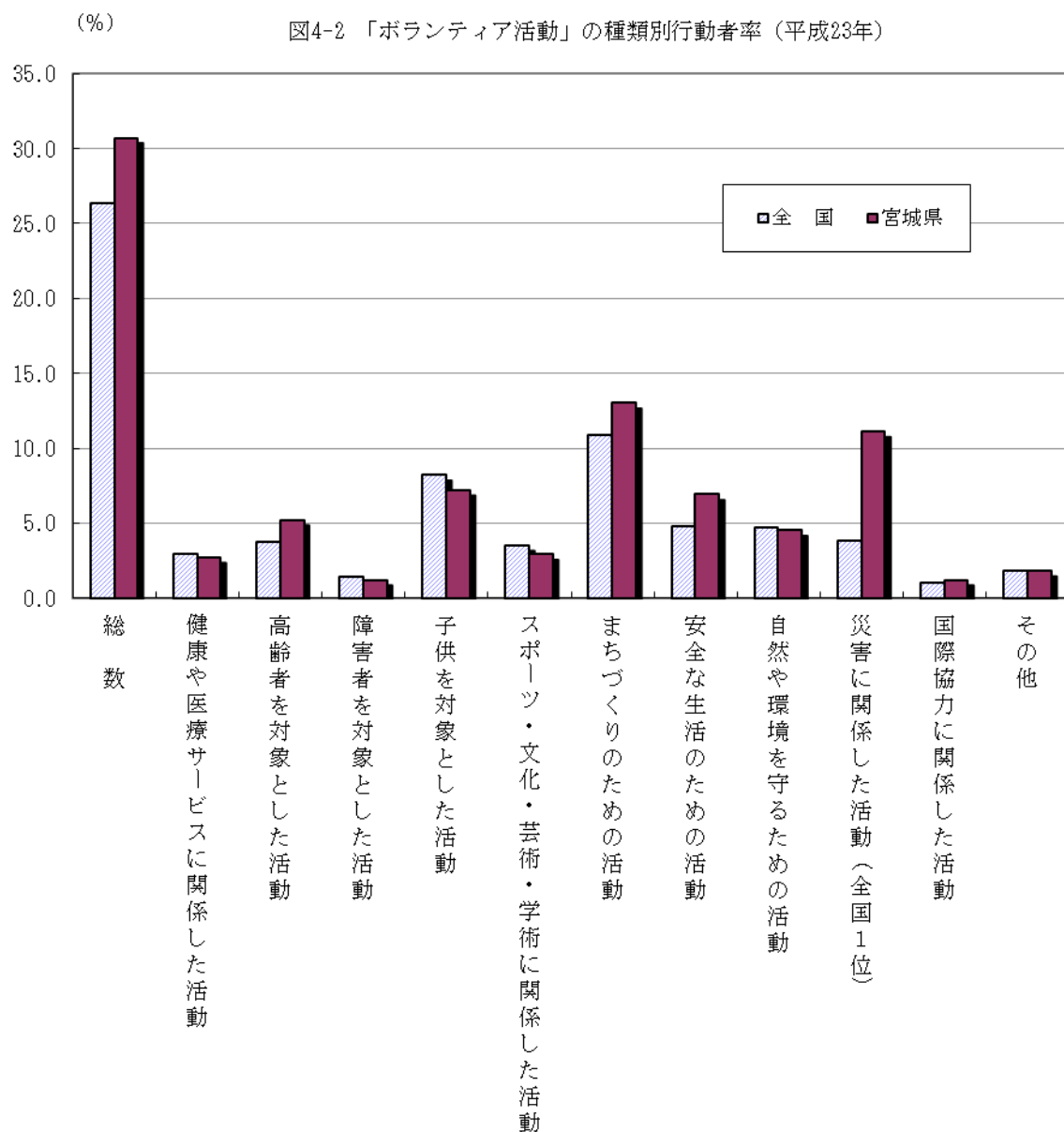
図4-1 男女、年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率（平成18年、23年）



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全国1位

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が13.0%と最も高く、次いで「災害に関係した活動」が11.1%、「子供を対象とした活動」が7.2%などとなっている。

特に「災害に関係した活動」の行動者率11.1%は、岩手県と並んで全国1位だった。



3 スポーツ【第3表参照】

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は125万5千人、行動者率は60.2%

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は125万5千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は60.2%（全国30位）となっている。行動者率を平成18年と比較すると3.7ポイント低下している。全国と比べると、2.8ポイント下回っている。

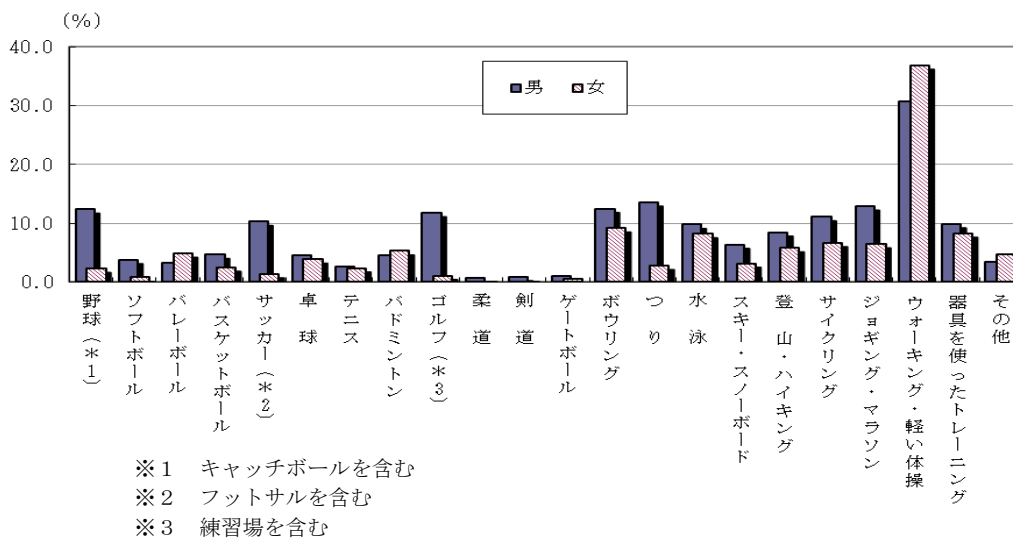
男女別にみると、男性は65.3%（行動者数66万人）、女性は55.4%（同59万5千人）で、男性が女性より9.9ポイント高くなっている。これを平成18年と比較すると、男性は4.0ポイント、女性は3.4ポイントそれぞれ低下している。

(2) 行動者率が最も高い「ウォーキング・軽い体操」

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が33.8%（行動者数70万5千人）と最も高く、次いで「ボウリング」が10.7%（同22万3千人）となっている。

男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」（男性30.6%、女性36.8%）が最も高く、次いで男性は「つり（13.5%）」「ジョギング・マラソン（12.8%）」「ボウリング（12.4%）」、女性は「ボウリング（9.1%）」「器具を使ったトレーニング（8.2%）」「水泳（8.1%）」などとなっている。

図2 男女、「スポーツ」の種類別行動者率（平成23年）



4 趣味・娯楽【第4表参照】

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は約178万3千人、行動者率は85.5%

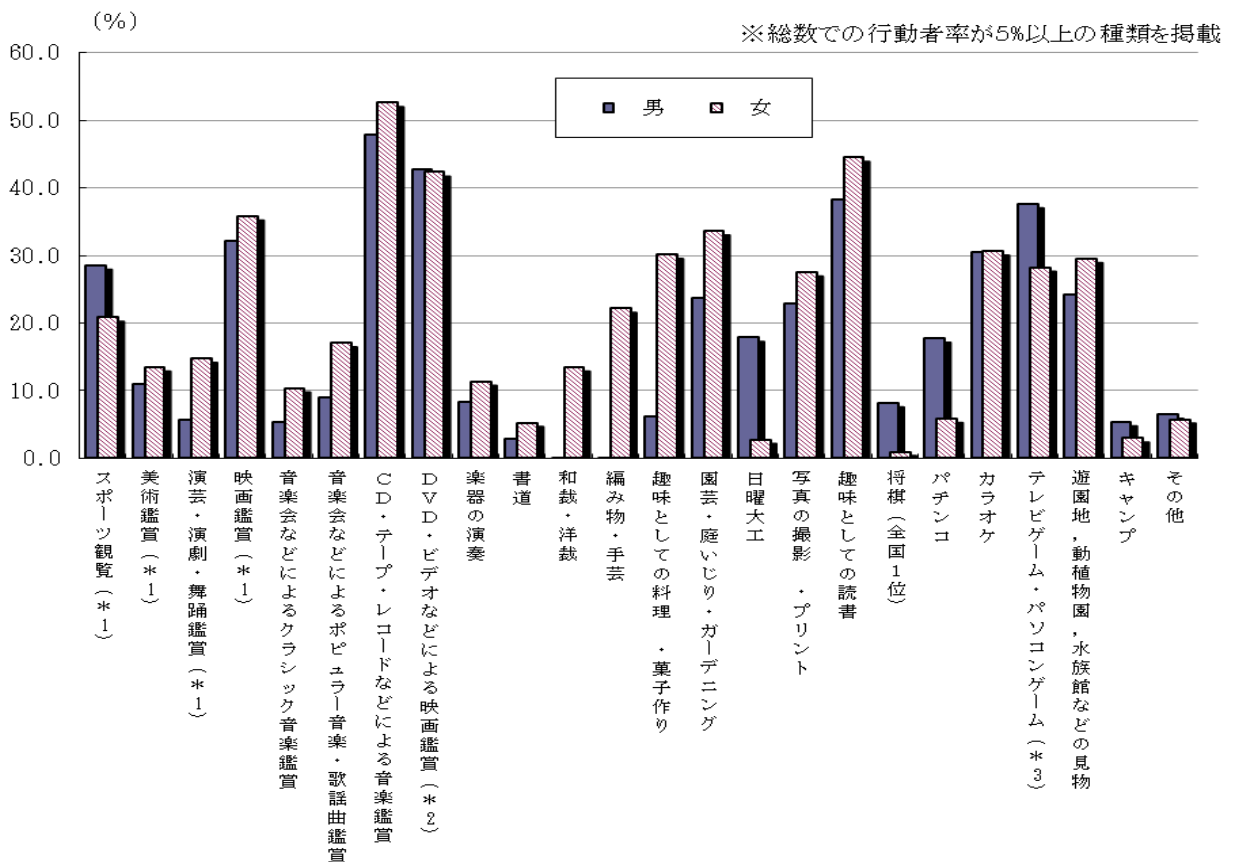
過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は178万3千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は85.5%（全国10位）となっている。行動者率を平成18年と比べると、0.7ポイント上昇している。全国と比較すると、0.7ポイント上回っている。

男女別にみると、男性は85.2%（行動者数86万1千人）、女性は85.8%（同86万1千人）となっている。これを平成18年と比べると、男性は0.6ポイント上昇し、女性は0.3ポイント上昇している。

(2) 行動者率が最も高い「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」

「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると、男女とも「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」（男性48.0%、女性52.7%）が最も高く、次いで男性は「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞（42.8%）」、「趣味としての読書（38.4%）」、女性は「趣味としての読書（44.6%）」、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞（42.4%）」となっている。

図3 男女、「趣味・娯楽」の主な種類別行動者率（平成23年）



※1 テレビ・DVDなどは除く
 ※2 テレビからの録画は除く
 ※3 家庭で行うもの。携帯用を含む

5 旅行・行楽【第5表参照】

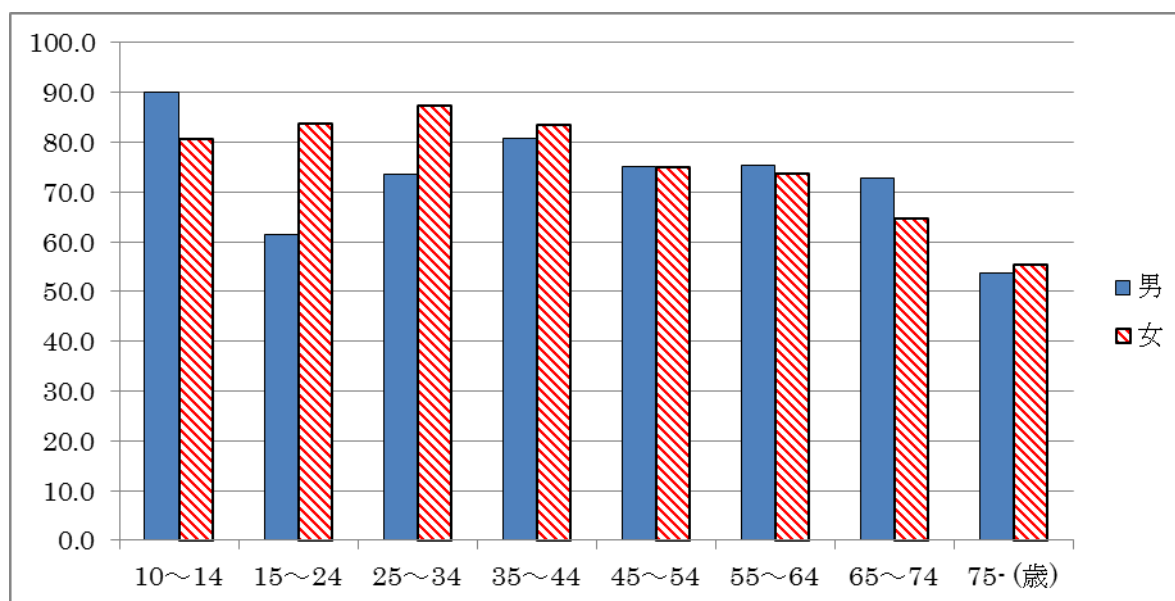
(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は154万1千人、行動者率は73.9%

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は154万1千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は73.9%（全国18位）となっている。行動者率を平成18年と比べると1.8ポイント低下している。全国と比較すると、0.7ポイント上回っている。

男女別にみると、男性は72.7%（行動者数73万5千人）、女性は75.0%（同80万6千人）で、女性が2.3ポイント高くなっている。これを平成18年と比べると、男性は1.0ポイント、女性は2.6ポイント、それぞれ低下している。

「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が85.5%と最も高く、次いで35～44歳が82.2%、25～34歳が80.5%となっている。

図5-1 男女、年齢階級別「観光旅行」行動者率（平成23年）
(%)



(2) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、55～64歳の女性が最も高い

「旅行・行楽」を行った人の行動者率を種類別にみると、「旅行(1泊2日以上)」が59.5%、「行楽(日帰り)」が59.3%となっている。

「旅行(1泊2日以上)」のうち「観光旅行」の行動者率を国内・海外別にみると、国内の「観光旅行」は男性が42.7%、女性が43.8%、海外の「観光旅行」は男性が3.7%、女性が4.9%と、いずれも女性が男性より高くなっている。

これを、年齢階級別にみると、国内の「観光旅行」では、25～34歳の女性が59.8%と最も高くなっている。また、海外の「観光旅行」では、55～64歳の女性が8.8%と最も高く、次いで25～34歳の女性が7.1%、35～44歳の女性が6.9%となっている。

図5-2 男女、年齢階級別「観光旅行」行動者率（平成23年）

